

子どもの心と体を元気にする

ボールゲームABC

―ハイデルベルク大学と共同開発―

保健体育講座・教授

木村 真知子

むずかしくなった 子どものスポーツ指導

今の子どもたちは外遊びをほとんどしなくなったため、基本的な運動経験が不足し、体力・運動能力の低下はもとより、心身のさまざまな問題を抱えるようになっていきます。そこで「体育はもっと頑張れ!」と叱咤激励されるわけですが、その一方で現場の教師や指導者からは「どうしたらよいか分からない」といった声が頻繁に寄せられるようになっていきます。どうということかという点、教師や指導者がさまざまなスポーツ技術を教えるようとしても、外遊びをしてこなかった子どもの方は技術以前のところでつまづいてしまい、結局スポーツの面白さに触れることなく体格だけが大きくなってしまふというわけです。基本的な運動経験の不足↓スポーツ技術の習得困難(スポーツの入り口での拒絶反応)↓スポーツ嫌い↓基本的な運動経験の不足という悪循環がますます問題を大きくし、教師や指導者の思いとは裏腹に、指導が空回りしてしまふのです。

■ハイデルベルク大学の試み

このような問題は先進諸国に共通してみられる問題ですが、ハイデルベルク大学スポーツ科学研究所(平成5年に本学と交流協定締結)ロート教授の研究チームは、新しい子どものボールゲーム指導プログラムを開発し、この問題解決の突破口を開いたこと

で世界的に注目されています。

この指導プログラムは、バレーボール、サッカー、テニスといった個別種目の学習に入る前にすべてのボールゲームに共通する最大公約的な基本要素(例えば「敵の穴を見つけよう」「飛んでくるボールのところに走りこもう」など)をプレイしながら身につけることができるよう工夫されており、いわば昔の子どもたちが路地や空き地でやっていた運動あそびの発想で、さまざまなボールゲームの基礎技能がオールラウンドに習得できるように創られています。

■夢膨らむ共同開発プロジェクト

「これはいただき!」と、我が日本にも取り入れようと思いきや、ヨーロッパのこのプログラム、残念ながら野球がほとんど念頭に置かれていません。また用具に関しても日本の学校ではほとんど



「ボール教室」第1日目の様子



「ボール教室」参加児童、指導者、補助学生

使われない長椅子などがよく登場します。そこでロート教授から助手のハーフさんを奈良教育大学に5カ月間派遣してもらい、日本版プログラムを共同開発することになりました。ハーフさんは日本に来てから熱心に野球のルールと実践を勉強し、また学校も積極的に視察し、我々と討論しながらようやく日本版の原案を創り上げました。そして、この原案は附属小学校で開くモデル「ボール教室」で実施に移されます。はたして参加してくれる3年生の子どもたちの期待にこたえることができるかどうか…。奈良教育大学から子どもの心と体を元気にする新しいスポーツ指導法を発信しよう!と夢膨らませ、私たちのプロジェクトは現在進行中です。